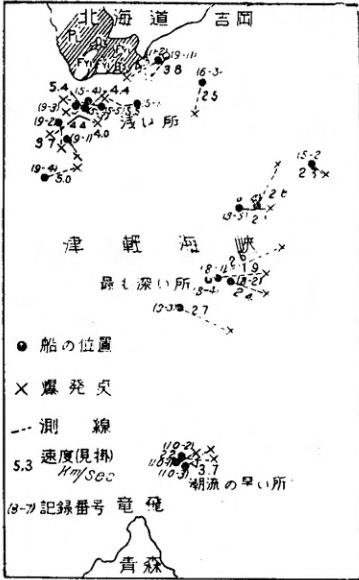


# 海底の地震探査

## 新しい技術～浮遊移動法の研究

### 津軽海峡海底トンネルのための調査



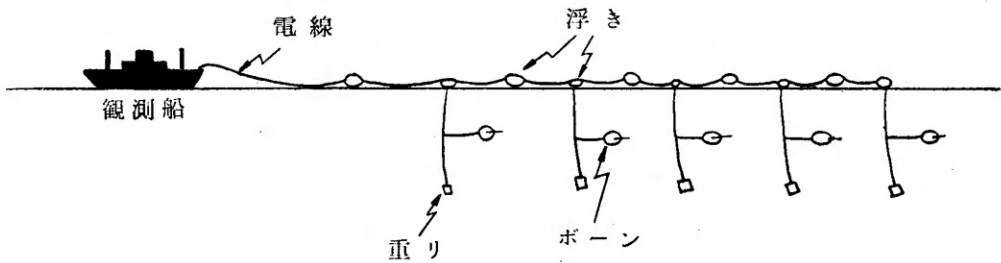
四辺を海で囲まれたわが国では、海底下に眠る地下資源を探査し開発することについて、次第に世人の注目をひくようになってきたが、その調査方法としてはいろいろある中で地震探査法が最も有力なものと考えられている。

海といつても深さ、潮流の強さ、海底に岩石の露出している場合、砂や泥の場合などによつてその条件は複雑である。従つて、地震探査の方法にも地震計を固定させたり、海底を引つぱつたり、浮べたりする方法がある。

津軽海峡は海流が速く、深度も中央部では 150m 以上にもおよぶので、地震計（受振器）を浮べて引つぱる浮遊移動法が最適である。しかし、この方法についてわが国では未経験のため、昨年の夏地質調査所物理探査部と鉄道技術研究所が協力してその研究を行つてきたが、その結果、浮遊移動法により海底の地質を調べることが可能になつたので、今年度には本格的な調査をすることが計画されている。

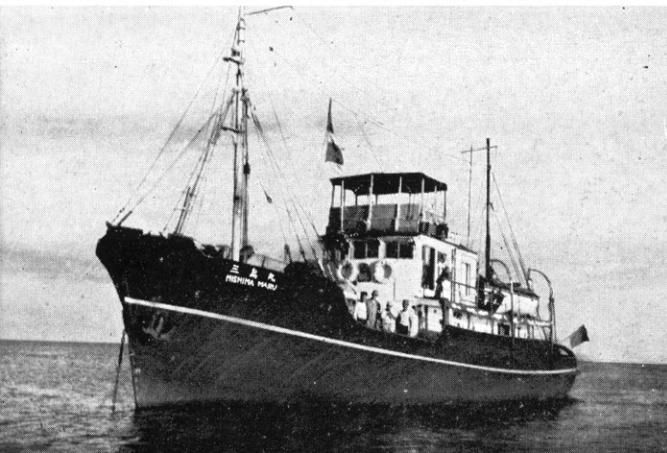
(物理探査部)

観測船から図のようにボーン(5コ)の付いた電線を引つぱっている



観測器械をのせた三島丸(100トン)

前部の船室へ設置したSSC型地震探査装置  
右側が記録器、中央から左が増幅器





ブーンの外形  
(受振器を入れた重さ 約8kg)



ブーンの中には耐水装置を  
した受振器が入れてある



船尾に電線・浮き・ブーン・  
重り等がおかれている。これ  
から海へ投下するところ

ブーンは海中でイルカのように泳いでいる

電線には 30~40 cm 毎に船型の  
ビニールの浮きが付けられている



ところどころに赤色に塗った大き  
な浮きを付けて目じるしにする

ブーンは舷側に触れないよう  
うに注意して投下される

ブーンを洩航中の観測船

